

令和5年度 学校関係者評価書

鹿師市立清和小学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>1 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上の研修の実施 ・研究授業によるPDCAサイクル →指標:児童アンケート「授業がわかる」【目標値:90%以上】 <p>2 基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学vivaの活用による課題の把握と改善 →指標:学調・みえスタ【目標値:国・県平均よりR5年度4月3ポイント上、R5年度2月とR6年度4月5ポイント上】 ・図書活用 ・(成果と課題) <p>授業改善について、全学年で国語科または算数科または人権の研究授業(全体研3本、学年部研4本)を行い、授業の成果と課題を明らかにし、授業力向上に努めた。児童アンケートでも、5月93%、11月91%が「授業がわかる」と回答しており、成果が出ている。基礎学力の向上について、学vivaの活用はあまりできていないが、学調・みえスタの結果を分析し、児童の課題と、授業の改善を行った。読む・書くワークシート、YOMUYOMUワークシートの指導を、全学年で統一し、系統的な指導を行った。学調(6年生)は、国平均より、4月は国語科+5.8、算数科+3.5、みえスタ(5年生)は、県平均より、国語科+8.2、算数科+9.9、理科+3.8、みえスタ(4年生)は、県平均より、国語科+11.8、算数科+13.1、成果が出ている。図書活用について、年間図書貸出数は、どの学年も目標値を達成しており(予定)、成果が出ている。ただし、読書内容の充実には課題があり、さらに取り組みが必要である。</p>	<p>・国平均よりプラス評価なのは誇るべき。継続を。</p> <p>・読書については、個人の関心のもちようにもよる。感動した読書体験を聞きあうなどして読書意欲喚起を図ってはどうか。</p> <p>・読書は全学年を通して大いに進めるべきである。</p> <p>・授業がよくわかると回答した児童が93～91パーセントというのは先生方の指導の成果であるが、「いいえ」と回答する児童を減らす努力も必要。</p> <p>・子どもたちの学習意欲は高いと感じる。授業をまじめに受け、休憩時間以外で遊んでいる何気ない日常が大切である。</p> <p>・先生方をはじめ、皆さんの努力に感謝します。授業改善、基礎学力向上、図書活用等、自治会代表として評価することは現状できないため、情報発信や学校諸活動への積極的な参加要請をしていただきたい。</p> <p>・国語全国比+5.8P、算数全国比+3.5Pとなっている。昨年の分析から、条件合わせた記述に課題を見出し、重点的に指導をした結果である。</p> <p>・5月・11月児童アンケートを比較すると、プラス回答が増え傾向。ただし、学校生活に慣れるとともにマイナス面、プラス面が学年によって違ってきている。アンケート結果に基づいた視点で児童と接していくことが大切。</p> <p>・授業参観の様子から、先生方の努力が大いに発揮されている。児童の発言や行動が元気づけようとしているクラスもある。全体的には発言の声が少ない。</p> <p>・勉強で理解できないときに、先生、保護者、同級生に聞けない児童がいた場合の対処方法も大切。</p>	<p>・授業改善について、1割弱の子どもが「授業がわかる」と回答していないので、全ての子どもに分かりやすい授業を目指して、授業力向上に努める必要がある。</p> <p>・基礎学力の向上について、音読の質を高めていくために、子どもたちへのよりよい指導の仕方や音読カードの在り方など、検討していく必要がある。</p> <p>・図書活用について、読書内容を充実させるために、学年に応じた「おすすめの本」を選定し、紹介していく取り組みを検討している。</p>
ICTの活用	<p>1 端末機器を生かした学び(授業・家庭学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業におけるICT端末の活用(意見交流での活用) ・児童の端末を持ち帰り(4年生以上毎日、3年生以上下週1回以上) →指標:児童アンケート「目的に合わせて活用」【目標値:90%以上】 <p>2 教職員の活用力アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT関係の研修の実施(意見交流での活用、家庭学習での活用) →研修後教職員にアンケート【目標値:満足度90%以上】 <p>(成果と課題)</p> <p>端末機器を生かした学びについて、授業においてオクリンクやジャムボードを用いて協同学習として活用している。3年生以上で毎日端末を持ち帰らせて、家庭学習で活用している。1、2年生も3学期以降、週1回以上持ち帰らせ、家庭学習で活用している(予定)。児童アンケートでも、5月94%、11月96%の児童が「クロームブックを目的に合わせて活用」し回答しており、成果が出ている。教職員の活用力アップについて、ICTに関わる研修を、校内研修会で定期的に実施した。教職員のICTスキルは向上している。</p>	<p>・ICTは発展の初期段階のため、試行錯誤により努力していただきたい。教員も得手不得手があると思うが、克服し熱い気持ちで取り組んでいただきたい。</p> <p>・ICT活用は今後の生活に欠かせないと思われるので、機器を上手に使えるよう、全体的なレベルアップを図る必要がある。</p> <p>・学習に役立たなければ、大いに活用すべき。効率も上がるだろうし便利になるであろう。これらも期待したい。</p> <p>・学校の現状を把握するため、情報発信や学校諸活動への積極的な参加要請をしていただきたい。</p> <p>・4年生への地域学習説明会でのクロームブック活用は対面授業と違った形で新鮮さを感じた。紙資料で説明を行ったが、後でこうしてまめるのは良い。</p> <p>・ゲーム、スマホの使用について、アンケートでは1時間未満、2時間未満が多いと感じた。</p> <p>・今後チャットGPTなどAIもあり付き合ひ方、使い方に注意が必要。</p>	<p>・端末機器を生かした学びについて、家庭学習をさらに充実させていきたい。ドリル学習だけでなく、反転授業など様々な活用方法を検討していく必要がある。</p> <p>・教職員の活用力アップについて、今年度習得したICTスキルを土台に、デジタルとアナログの利点を活かした授業改善に努めていく必要がある。</p>
生活指導・人権教育	<p>1 自分で判断し行動できる児童の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話による問題解決 ・児童主体の啓発活動 →指標:児童アンケート「いじめはイヤ」【目標値:100%】 <p>2 コミュニケーション力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表する場を保障 ・自分や友だちを大切にする仲間づくり →指標:児童アンケート「友だちが困っているときに助けることができる」【目標値:90%以上】 <p>(成果と課題)</p> <p>自分で判断し行動できる児童の育成に関しては、始業式や終業式の話や日々の指導において、「いじめはイヤ」「どんな理由があっても許されない」と全校児童に向けて自分たちに向けて自分たちでできることを考えたり、クラスで話し合ったりしてきた。児童アンケートの目標値は「いじめはイヤ」100%であったが、11月98%という結果であった。理由や回答した人物がわからず、今後指標にも生かせるのではないかと考える。今後「いじめはイヤ」なことである児童に伝え続け、アンケートの「いじめはイヤ」の回答の「はい」を増やす必要がある。</p> <p>コミュニケーション力の育成に関しては、人権教育目標を「自分や人を大切にし、つながり合える子」と設定し、課題はコミュニケーション力であると考えて取り組んできた。人権研修では各クラスを取り組んでいる実践報告を行った。児童アンケート「友だちが困っているときに助けることができる」の目標値90%を超えた93%であった。同じ児童アンケート「困っているときに助ける」を求めることができるは、84%だったため、困っているときに安心して助けを求められるような関係づくりをしていくことが課題と思われる。</p>	<p>・コミュニケーション力は終生にわたり必要。幼少期から多くの意見を聞き、自分の考えを表現する能力を身に付けることが人格形成上必要である。</p> <p>・いじめはイヤという回答が98%の高水準であるが、いじめはイヤという回答が98%あるからと考えると、少し数値が下がる気がする。</p> <p>・家庭力の調理実習では、どのクラスも協力的に調理し、新井、片づけをして素晴らしい。先生やボランティアの支持をきちんと聞いて、互をききながら行っていた。子どももボランティアも貴重な経験をお互いにできたと思う。</p> <p>・学校の現状を把握するため、情報発信や学校諸活動への積極的な参加要請をしていただきたい。</p> <p>・下校時とどんの児童が元気づけようとして大変気持ちが良い。所定のジャンパーがあると安心感があるから、挨拶してくれる。善哉善哉と、警戒心から戸惑う児童が多い。不審者対応から当然かもしれない。</p> <p>・早寝早起き、朝食を食べ、一日の生活の基本であり、家庭での教育の基本。</p> <p>・子どもたちも親の背中、行動、動きをよく見ている。保護者との対話大切。大人の目線、子ども目線では大きな隔りがある。ちょっとしたことを家庭で話にするのも子どもたちにとってはとても安心感の持てる場であると思われる。</p> <p>・家庭のだんなの立場の考え、子どもの考えをお互いに否定せず、自由に話をするのも大切。親として押し付けはしないことも大切。</p>	<p>・本校の児童は困っているときに友達に助けを求めることが難しいことも課題である。自分の思いを伝えられる学校づくりに努める必要がある。そのためには安心して過ごせる環境や関係づくりが求められる。日ごろから自分の思いを伝える場の設定、互いの思いを受け止めることの大切さ気づくための取り組みが必要である。</p> <p>・いじめはイヤといわなくても、いじめをしてしまっている場面やいじめにつながる行動があったら、その態度やいじめに個別指導を行っている必要がある。相手の気持ちをよく、その際、その子の特性や家庭環境などの背景についても手立てを考えていく。そして、いじめをなくするため、教員が一丸となって協力する。また、担任一人で行えることでも、教員同士や関係機関等と連携していくことも大切である。</p>
長欠減少	<p>1 新たな不登校を生まない学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安心していられる居場所づくり・学力保障 ・正しい児童理解と適切な対応 →指標:児童アンケート「先生や友だちに認められている」【目標値:90%以上】 <p>2 不登校(傾向)児童への適切な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策委員会による組織的早期対応 ・SO、SSW等の医療や福祉等との連携支援 →指標:長期欠席児童の年間登校日数【目標値:昨年比10%増】 <p>(成果と課題)</p> <p>新たな不登校を生まない学校づくりに関しては、職員会議等で各学級の情報共有を行ってきた。児童の児童アンケート「先生や友だちに認められている」は5月92%から11月87%に下がっており、「学校が楽しい」は87%のままであった。どちらも目標値の90%以上は達成できない。質問する時期によって回答が異なる可能性や児童の日々の生活に余裕がもたない可能性も考えられるのではないかと。学習内容や行事等が多いため、学習の工夫をしたり、行事の精選をしたりすることも必要なのではないかと考える。今後も児童の情報共有を行い、安心して暮らせる学校、学校をつくる必要があると考える。</p> <p>不登校(傾向)児童への適切な支援に関しては、不登校対策委員会を定期的に実施して情報共有を行い、対応について話し合ってきた。また日々の家庭訪問や電話連絡において、保護者と児童本人との関係づくりにも努めてきた。登校できる日数が増えたと考えている一方で、登校することが難しい児童もいるため、今後も児童理解に努めていく必要があると考える。</p>	<p>・家庭訪問や学校生活での出来事を伝えるなどして、本人の気持ちや考えを伝えるために、粘り強く働きかける必要がある。一方で多岐にわたる業務の中、働きかけ方工夫が必要。</p> <p>・不登校児童への適切な対応・支援は一人ひとりに向き合うこととなり、大変な労力を伴うが、粘り強く取り組む必要がある。</p> <p>・保護者が、感じている不安や困りごとをどこまで相談しやすいのか、相談しあえないこともある。「助けて！」と声を上げたいと支援が届かないので、まず声を上げてほしい。</p> <p>・学校の現状を把握するため、情報発信や学校諸活動への積極的な参加要請をしていただきたい。</p> <p>・不登校児童、不登校傾向児童への適切な支援の充実、他校での効果の見たれた実践策の情報収集、情報交換も必要かもしれない。</p>	<p>・不登校の児童や不登校にならずにその学年の情報や対応を各学年部や会議で共有し、効果的な働きかけを協議し対応している。</p> <p>・保護者の抱えている不安や困り感については、さつき教室やけき教室、連絡、不登校の子どもをもつ保護者の集まりなどのチャラを積極的に連携し、学校へとの相談も含め、相談できる機関を伝えたりすることを行っている。</p>
地域連携	<p>1 家庭におけるスマホ、ゲーム時間・家庭学習・読書時間の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAIによる啓発・研修会に実施 ・家庭学習強化週間、ノーマディア週間による家庭への啓発 →家庭学習強化週間、ノーマディア週間の目標達成率【目標値:90%以上】 →指標:保護者アンケート「スマホ・ゲーム時間」「家庭学習」「読書時間」【目標値:昨年比10%改善】 <p>2 地域人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの活用(安全安心・読み聞かせ・図書館整備・環境・学習支援等) ・地域ゲストティーチャーによる地域学習 →ボランティア活動人数【目標値:年間べ活動人数2500人】 <p>(成果と課題)</p> <p>家庭におけるスマホ、ゲーム時間・家庭学習・読書時間の改善について、家庭学習強化週間、ノーマディア週間を回実施(予定)し、家庭へ啓発している。家庭学習強化週間の達成率は平均89.3%、ノーマディア週間の達成率は平均85.9%、また保護者アンケートでは、「スマホ・ゲーム時間:1時間未満」昨年比+11.5%、「家庭学習:学年×10分以上」昨年比-5%、「読書時間:あり」昨年比-1%と回答しており、さらなる啓発が必要である。</p> <p>保護者アンケート「地域と連携した子どもの育成」において昨年比+2%となっており、コロナ禍での低迷からの回復が見られる。学校支援ボランティアは11月末までにべ1700人ほど活動していただいた。しかし、ボランティア登録の今年度の新規登録者は6名にとどまっております。将来的に考えると対策が必要である。地域学習は2年目で、昨年より見直しをもって実施できた。今年度の反省をもとにより充実した学習としていきたい。</p>	<p>・家庭学習やゲーム・スマホの使用時間や制限の方法の情報交換が必要。</p> <p>・子供は地域にとっても大切な人材であるため、できることは協力します。</p> <p>・清和は、子どもたちが安全に、健やかに育っていると思っている。大人が地域の中心にくささいいづつやる。しかし、小学校に来てくださる方は限られています。人材活用が課題だと思います。</p> <p>・ボランティアのなり手不足があるので、清和小校区だけでなく、「定五郎」活動前授業のように、牧田地区地域づくり協議会への要請をしてはどうか。牧田地域づくり協議会は要請が牧田小学校だけと聞いている。</p> <p>・学校運営協議会の内容も「学校だより」により保護者、地域に知らせているから、理解を示されている感がある。今後よろしくPRをお願いしたい。</p> <p>・昨年と続いての地域学習は、今まで知らなかった児童にとって新鮮で興味深いものだったと思われる。地域の年配の方は、いろんなことをよく知っている。将来のためにも、今回発表できなかったことについて、児童に説明する機会があれば大変うれし。今年で現4年生、5年生、6年生が経験したことになる。今後も継続が必要であると考える。</p> <p>・各ボランティアのメンバーが固定化できている。新たなメンバーを募集する時期にきているかもしれない。</p>	<p>・家庭におけるスマホ、ゲーム時間・家庭学習・読書時間の改善について、子どもがよりよい時間を考えられるように、家庭学習強化週間、ノーマディア週間の在り方方法を検討していくとともに、家庭の協力を得るための啓発をする必要がある。</p> <p>・ボランティアについては、よりよい実施方向を検討していく。</p> <p>・ボランティアに協力していただけるよう、地域づくり協議会や自治会とのつながりをつくっていく。</p>